

平成30年度 後期全体評価と自己評価集計結果(実施月2月)

◆全体評価 評価基準：A十分している Bだいたいしている C余りしていない Dしていない A= B= C= D= 未回答=

内容	観点	具体的目標	0	25%	50%	75%	100%	
教育環境	教育目標	園の教育理念や方針、園長の考え方を職員が理解・共感している。						
	達成の方針	自分は園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできている。						
	教育・保育要領の理解	教育・保育要領に戻り、研究会・研修会等で話し合い、理解していると思う。 教育・保育要領について、幼児の姿や環境の構成、教師の関わりなど具体的な事例を想起できる。						
	教育課程の編成	園の教育課程は、教育・保育要領の精神をふまえ、園の教育理念・教育方針が生きている。 園の教育課程をもとに、保育の計画を立てている。						
	指導計画の作成	園の方針を指導計画や保育に生かしている。 指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活など幼児の生活が豊かになるよう考慮して作成している。 常に見直しを行い、幼児の実態や周囲の状況の変化の対応できるように作成している。 遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・量を配慮して用意している。 幼児の動線・目線に配慮した、楽しい雰囲気の中で安定して遊びこめる環境構成をしている。 季節の変化に応じ、また異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。 幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示を考えている。						

◆自己評価 評価基準：A十分している Bだいたいしている C余りしていない Dしていない

内容	評価・反省	0	25%	50%	75%	100%			
幼児への対応	健康・安全への配慮	自分の保育と計画の評価・反省は、保育記録をとりながら行い、次の保育と計画に生かしている。 情報交換しながら、自分の評価・反省に生かし、幼児の生活と自らの保育につなげるよう努力している。 朝の登園時は特に視診を大切に幼児の体調に気を配っている。 万一事故やけがが発生した場合は、マニュアルに従い、園長の指示を受けて、保護者に連絡をとったり、医師にみてもらうなど適切な処置を行っている。 園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊び方はないか、活動が年齢や能力に対して危険で無いか等を常に観察している。 危険が予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり、考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気づくことができるようにしている。 トイレの清掃や使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している。							
	幼児のみとりと理解	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう努めている。 見えないところで活動している幼児についても、その活動を推察するよう努めている。 幼児一人ひとりの興味・関心をもっていることをとらえ、一方的な感じ方や考え方で決め付けしないで、それらを糸口にした関わりに心がけている。							
	指導と関わり	幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線に立ってものを見つめたりし、幼児からのアイデアをくみ取って遊びを深めていく努力をしている。 幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、関わり方を決してしないようにしている。 善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上での「先生のように」と幼児が思うようなモデルとしての姿を心がけている。 幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供するよう努めている。 スキンシップを大切にし、いき詰まっている時に適切な援助をしたり、幼児が自ら考えたり工夫したりできる見守り方に心がけている。 ほめたり、励ましたり、めあてを持たせるような言葉かけをし、禁止・命令や自信をなくするような態度は控えるように努めている。 幼児同士のトラブルに対し、双方の話をしっかり聞き、適切な対応をとるよう努めている。 幼児の家庭環境や生活態度などを考慮してかかわっている。							
	保育のあり方	保育者同士連携	クラスに関係なく、その場にいる教師が適切な言葉かけや対応に心がけている。 指導上配慮を要する幼児については、全体でよく話し合い、共通理解をもって対応している。 他クラスや異年齢の幼児たちが関わられるよう、さまざまな形態や工夫をしている。 幼稚園教諭としての専門知識や技能を身につけようと、専門書を読んだり、情報収集したりしながら研修を重ねるよう努めている。						
		専門家としての資質	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく伝えるよう心がけ、保護者との信頼関係を築くよう努めている。 保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけ、幼稚園には自分自身のプライベートな生活や感情を持ち込まないようにしている。 幼児や保護者、同僚との対応には、公平さを欠かないように努めている。 現金の管理、園の重要書類の持ち出し、締め切りのある仕事の期日といったことをきちんとしている。 教職員全員で一つのチームであることを自覚し、協力・実行している。 上司の支持、命令には責任をもって従い、子どものこと・クラスのことには報告・連絡・相談をしている。						
	その他	保護者対応	連絡帳、電話などで、緊急な連絡等をとったり、いつでも個人懇談が行えるようしている。 園のすべての保護者に対し、親しみを込めた挨拶や会話に心がけ、依頼や伝言についてはメモするなどきちんと対応している。 保護者からのクレームがあった場合は、まず謙虚に話を聞き、園長に連絡・相談・報告している。						
地域との関わり		地域の自然や主な施設の場所、主な行事についてある程度理解し、活用に心がけている。 園開放や子育て支援のあり方について関心を持ち、教職員間でよく話題にする。							
研修と研究		指導計画の作成や記録のとり方、考察のあり方に関する研修・研究を積極的にしている。 園舎・園庭や砂場、通路、遊具の位置などが幼児にとってどのような教育的意味を持つかについて理解し、同僚と話し合いをしながら模倣替えをしている。 打吹山の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、保育に生かしている。 モデル事業の取り組みについて、その意義や意味を理解し、保育に生かそうとしてきた。							
今日的課題に対して		危機管理についての対応や話し合いの職場内研修を生かしている。 幼小連携についての情報等、その意義やあり方について考えた保育に努めている。 アレルギー・自立の遅れ・障害のある幼児に対応する保育のあり方についての研修や共通理解の話し合いをもとに実践している。							